

上田仮説サークルニュース		1月例会	2018.01号
編集責任 遠藤 裕		発行2018.2.17	
〒383-0041	中野市岩船426-3	サンガーデン中野B-G	TEL0269-23-2847 携帯090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 長野工業高校	TEL026-227-8555

1月27日(土) 上田市中央公民館 2F第1会議室



午後 3:00~9:00

参加者数 8名

資料総ページ数 225 ペ

<参加者> 柳沢克央さん, 増田伸夫さん, 長谷川正之さん, 渡辺規夫さん, 高見沢一男さん, 北村秀夫さん, 北村知子さん, 遠藤裕

はじめに 1月例会の参加者は8名。

今回、長谷川正之さんが初めて例会に参加されました。柳沢さんのご友人だそうです。今後ともよろしく願いいたします。

レポートは、すごい数になり全部で36本、総ページは225ページでした。時間の関係でなかなかゆっくり時間を取ることができず、発表者の皆さんにはご迷惑をおかけいたしました。長谷川さんから1本(資料は柳沢さんが用意してくれました)、柳沢さんから29本(新聞記事の紹介は1本にまとめました)、増田さんから2本、渡辺さんから3本、高見沢さん1本。合計は36本。

長谷川さんは、ブログに発表されている資料をていねいに説明してくれ、大変わかりやすかったです。

高見沢さんは、ビー玉で炭素の同素体4種類を作ってきてくれ、希望者に分けてくれました。すばらしいできの模型です。高見沢さんには是非とも簡単に作れるマニュアルを作成していただけたらと思います。

終了後「大戸屋」で夕食会。

1. 発表資料

① サークルニュース 12月例会 遠藤 裕 (14ペ)

1. 発表資料

- ① サークルニュース 11月例会 遠藤 裕 (16ペ)
- ② ボンテン分子模型による化学反応式の導入 渡辺規夫さん (10ペ)
- ③ 教科「数理」の実施とその成果に関する考察 渡辺規夫さん (8ペ)
- ④ 子ども向け冬季講座 わくわく科学教室《びりりん》 渡辺規夫さん (13ペ)
- ⑤ 紹介 科学史学会でシンポジウムやります 渡辺規夫さん (6ペ)

- ⑥ 板倉講演音源 デジタル化中間報告 2017年12月16日 渡辺規夫さん(4ペ)
- ⑦ 読書メモ 2017年12月号 柳沢克央さん(20ペ)
- ⑧ 「七転び八起き学」月報① 2018年1月 財布をなくした! 柳沢克央さん(4ペ)
- ⑨ ブログ紹介: イメージトレーニングで成功者に!
効果的な方法と叶うイメージのコツとは? 柳沢克央さん(4ペ)
- ⑩ センター化学 受験心得 11カ条 柳沢克央さん(2ペ)
- ⑪ 紹介 しっかりやれば防げる!
ミスを引き起こす五つの原因はこれ 柳沢克央さん(2ペ)
- ⑫ 「周期表語呂合わせ」の例 柳沢克央さん(1ペ)
- ⑬ 「東洋経済オンライン」記事より紹介
日本人は「軍事的常識」が著しく欠如している 柳沢克央さん(4ペ)
- ⑭ 「東洋経済オンライン」記事より紹介
日本人はまだトランプ大統領をなめている 柳沢克央さん(4ペ)
- ⑮ ブログ紹介 駅伝と商談会の関係 柳沢克央さん(4ペ)
- ⑯ 紹介 MORGENN 佐藤優氏への十代のころのインタビュー記事 柳沢克央さん(2ペ)
- ⑰ 新聞記事の紹介 柳沢克央さん(7ペ)
- ⑱ 紹介 「酒飲みおしょうさん」 一硝酸編一 柳沢克央さん(4ペ)
- ⑲ <今月の本紹介23> 増田伸夫さん(8ペ)
〔要約〕: 余りにも暮らしに根づいてしまった仏教と神道

② 読書メモ 2018年1月号 柳沢克央さん(48ペ)

塩野七生編『マキアヴェッリ語録』(新潮社・2003年)(ハードカバー)ほか
柳沢さんが読んだ本の紹介。

◇はじめに

昨年12月号までの「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、今回もこのメモを作成しました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく(適当に)おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。(私物)と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

年末年始休業は13連休をとることができ、とても充実した読書ができました。それでも、まだまだたくさん「課題図書」があります。これからも、しばらく本選びで悩む必要はないものと思われまます。幸せなことです。私の中を情報がスムーズに流れるように「消化吸收」と「結晶化」とを進めていく予定です。

昨年の成果は色々ありますが、特に次の二点をもう一度、記録しておきます。

①増田伸夫さんが「宗教関係の本も守備範囲にちょっとだけ加えてみて」という宿題＝〈束縛〉を出してくれ、苦しくない範囲でこれに乗ってみたお陰で、視野が拡大した。

②出口治明さん、島地勝彦さんの警咳に接することができた。

今年も、「七転び八起き学」〔12月14日（木）3時限目、1年2組「情報」の授業時間中に発案〕と平行して読書と思索とを進めていくつもりです。上田仮説サークルの皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。

◇前回、12月号で読んだ本

- ◎武田科学振興財団編『若き研究者へ贈る言葉』（非売品・2015年刊）
- ◎出口治明著『座右の書「貞観政要」』（KADOKAWA・2017年）（私物）
- ◎山本七平編『帝王学 — 「貞観政要」の読み方』（日経ビジネス文庫・2001年）（私物）
- ◎呉兢著・守屋洋訳『貞観政要』（ちくま学芸文庫・2015年）（私物）
- ◎佐々木常夫著『ビジネスに活かす「孫子」』（PHPビジネス新書・2017年）（私物）

◇読書記録または読書メモ（順不同）

- ◎塩野七生編著『マキアヴェッリ語録』（新潮社・2003年・単行本）（私物）
- ◎隈元信一著『泳六輔』（平凡社新書・2017年）
- ◎出口治明著『本物の思考力』（小学館新書・2017年）
- ◎山本紳一著『やれぱできるもんやなあ — 京大医学部に入ろう—』（ミヤオビブリッシング・2017年）
- ◎ローレンス・A・カニンガム著／長尾慎太郎監修『パフェットからの手紙（第4版）』（Pan Rolling株式会社・2016年）（私物）
- ◎新津新生著『蚕糸王国長野県—日本の近代化を支えた養蚕・蚕種・製紙—』（川辺書林・2017年）（私物）
- ◎佐藤優著『知の操縦法』（平凡社・2016年）
- ◎ビートたけし著『バカ論』（新潮新書・2017年）（私物）
- ◎アレックス・ラインハート著・西原史暁訳『ダメな統計学—悲惨なほど完全なる手引き書—』（勁草書房・2017年）（私物）
- ◎和田哲哉著『「頭」が良くなる文房具』（双葉社・2017年）（私物）
- ◎石黒マリーローズ著『聖書でわかる英語表現』（岩波新書・2004年）
- ◎小木曾健著『11歳からの正しく怖がるインターネット』（晶文社・2017年）
- ◎樫田秀樹著『リニア新幹線が不可能な7つの理由』（岩波ブックレット・2017年）
- ◎島地勝彦著『神々にえこひいきされた男たち』（講談社+α文庫・2017年）（私物）
- ◎左巻健男他著『理科の実験安全マニュアル』（東京書籍・2003年）

◇次回以降の予告 14冊

◆まとめ・つぶやきなど ほんの一部掲載

○「生徒の命を守ります」と言うのが口先だけなのか、心からのものなのかを見抜く方法の一つ。それは「化学実験室と調理実習室が一階にあるかどうか」である。高校の授で室内において火を扱うのは理科（化学）と家庭科である。この二つの教室が窓から外に飛び出して逃げられる構造になっていることは何を差し置いても大切なことである。この基準で近いうちに北信地方の学校について、その構造の実態を調べてみたいと思っている。〔1月24日（水）9：40〕

○今朝、化学の質問にきた生徒と雑談していたときに話したこと。「アプリをどんどん更新するんだ。スマホも人間もアップデートが大切だよ」。…これを、七五調でまとめると、「文明の利器必要なご時世に、スマホを持たぬ私だが、喩え話は許される」〔1月24日

（水）9：43〕

○「予定時刻となったので」「本稿はこれで打ち留め印刷へ」。「最後までお読み下さりありがとうございます」。「午後すぐに次の仕事に取りかかる」。「新年も〈読書と思索〉楽しもう」。〔1月24日（水）14：30脱稿〕

（いつも読書メモをありがとうございます。今年こそ私も〈読書と思索〉を少しでも楽しみたいと思います。 エト`り）

③ 羽生善治永世七冠(将棋)講演に学ぶ

《七転び八起き学》 = 《転んでもシメタ学》 柳沢克央さん（4ペ）

「転んでもシメタ学」を根源的に考えるケース・スタディ(事例)。

上田仮説サークルウェブ・サイト「掲示板」の情報を加工し、4ページにまとめる。この講演を記録し、研究に協力くれた増田伸夫さん、ネット環境を提供してくれている渡辺規夫さんに感謝します。

（柳沢さんの進めている「事故学」「失敗学」、今後の発展が楽しみです。「相手の身になって考える→手がどう考えるかを相手の意識・感覚で予測する」が大切だと思いました。 エト`り）

④ ブログ紹介：“ボールを持っていないときの考え方”であなたの能力は決まる

柳沢克央さん（4ペ）

著者は村山昇氏。

自分を一段高いところから観察 メタ認知

もう1人の自分をこしらえるのに大切な3つのこと

1つ目に、飽くなき向上心を持って、理想の自分を思い描くこと。

2つ目に、関わるプロジェクトに関し、大きな目的(何を目指すのか+なぜそれをやるのか)を持つこと。

3つ目に、たとえ部分的に関わっていることでも、全体の責任を担うという責任者意識、当事者意識、オーナー意識

◆紹介者の考察「見れども見えず」が書かれています。

(世阿弥の「離見の見」「目前心後」が今日の心理学でいうメタ認知だとのこと。日ごろの仕事に生かせそうです。 エトワ)

⑤ 「転んでもシメタ学」を展望するための構想メモ 柳沢克央さん (1ペ)

柳沢さんの「転んでもシメタ学」の構想メモ。

◆板倉聖宣さん、牧衷さんが語る「失敗(成功)哲学」

◆古典・ハウトゥー本に学ぶ成功への知恵

◆アドラー心理学に見る「転んでもシメタ」

◆小野田正利(大阪大学大学院教授)の「保護者対応トラブル(イチャモン)」対応法に学ぶ「絶妙のタイミング」

◆人生は予測と制御…仮説実験

◆勝負あれこれ

◆展望

これを作り終えてみて、「一望俯瞰」の大きな意義を再認識した。頭の中が一気に整理されたという感覚。

(自分の考えを整理するとき、「一望俯瞰」の大切さを柳沢さんは強調しています。 エトワ)

⑥ 紹介 エコロジカルマップ 柳沢克央さん (1ペ)

日経 VIDEO 教員のための保護者対応力向上シリーズ 第6巻対応の難しいケース編

監修 小野田正利

問題の発端、本人を取り巻く環境が図解されています。

(問題が発生したとき、問題の状況を図解してイメージ化することが大切なようです。 エトワ)

⑦ 山田明彦さん（愛知）との最近のメールのやりとり 柳沢克央さん（4 ペ）

柳沢さんと山田明彦さん（愛知）のメールのやり取りの紹介。

『研究会ニュース 1・2 月号』の原稿を中心にしたメールのやり取りが紹介されています。
（山田さんの問題意識は「認識論」にあるとのこと。大学院で臨床心理について学びたいそうです。

エトワリ

⑧ 一球で始まるドラマ場合分け 柳沢克央さん（1 ペ）

柳沢さんによる野球におけるドラマの場合分けの図解。

（事故についての発想が「野球や体育の理論書には「ない」らしい…」とのこと。エトワリ

⑨ 信毎記事の紹介 柳沢克央さん（3 ペ）

信濃毎日新聞(2017.12.28)の新聞記事の紹介。

・のぞみ点検要請聞き逃す ・「安全優先」の理念放置 ・「JR 西 何も学んでいない」

柳沢さんの一言 新幹線の「安全神話」が重大事故のもとになりかねないことを示した事象か。「成功は失敗のもと」の典型例なのではないか。学校という大きな組織にとっても他人ごとでは済まされない。五感を研ぎ澄まして仕事を進めることが必要だと感じた。

（どんなときも「事故が起こるかもしれない」と考えてみる必要があると思います。 エトワリ

⑩ 「日経ビジネスオンライン」記事の紹介 柳沢克央さん（4 ペ）

記者がダメ出し！ 2017 謝罪会見 日産, 神鋼, 東レ, タカタ……それぞれの失策

不祥事が起きたときの4つの事例の紹介記事。

○謝罪というより「釈明」会見の日産・西川社長

○記者の質問攻勢に不快感をあらわにした神戸製鋼・川崎社長

○「ネット掲示板への書き込み」で慌てた東レ・日覚社長

○言い訳と責任転嫁のタカタ・高田社長

紹介者のひとこと…四つの事例を通して読んでみて感じたことは、「想像力の欠如」である。すなわち、ある行動を起こす前に、「このような振る舞いをすると、私は（私たちは）他者の目にどのように映るだろうか」ということを想像してみることが欠けている。行動する前に、まず想像してみることが大切なのではないか。これは決して他人事ではない。私自身（私たち自身）の問題である、と受け止めることが大切である。…このように思ったので、紹介することにしました。記者たちの目は、私たち自身の目であると想像してみること、そうして、まずは自分自身を客観的に冷静に観察してみる姿

勢が大切だと思った。

(「これは決して他人ごとではない。私自身(私たち自身)の問題である。」と柳沢さん。日々の生活や仕事において、常に意識しなければいけないことだと思います。 エドワ)

⑪ 紹介 国大協がマークテスト・民間検定両方を必須にした方針をめぐって

柳沢克央さん (4 ペ)

勤務校の進路指導係の保存文書から紹介。

2020 年入試からの新テストにおける英語について

*実体のない国大協の案

●最大の問題は中央と地域の格差拡大

●英語の試験は本当になくなるのか

(国大協の方針は、この資料を読む限り「これこそ暴挙」の一言。現場や受験生をまったく無視しており、学校における英語教育の破壊のように感じます。 エドワ)

⑫ 「馬鹿になる」ことのすばらしさ 柳沢克央さん (1 ペ)

明るい未来のため、「馬鹿になる」場面を想定した柳沢さんの文章の紹介。

(最後にある一文。「いまのあなたにとって、賭けてみる価値がある「仮説」とは何ですか。 エドワ)

⑬ 映画「君の名は。」を見て地域創生を考える 長谷川正之さん (28 ペ)

普遍的な内容を持った文章群であるということで柳沢さんが紹介。

サークルのでの義論のきっかけになる資料。

サークルに筆者の長谷川さんがお越し下さり、直接説明をしていただきました。

<紹介>

長谷川正之さん

アグリフード(風土)アドバイザー

長野県の農産物統一ブランド「おいしい信州ふーど(風土)」を創設し中心となつて推進。また信州6次産業化推進協議会副事務局長として、地域6次産業化を主導。H28年3月をもって任期満了し、地域創生を支援するアグリフード(風土)アドバイザー業務を開始す。長野県内で幅広いネットワークを持つ。現ト田市農政課職員 中小企業診断士

◆映画「君の名は。」を見て地域創生を考える①②③

映画「君の名は。」を見て、長谷川さんは地域創生には「この地の歴史的・文化的な基軸が必要」「過去を新たな視点で見直し光を当て、地域の固有性という付加価値を生み出す」と書かれています。そのもとになっている考えが「逆ビジョン」という考え方。それには、「場所性を重視する」「小さな地域が自ら考え発信する」「日本古来の文明を見直す」という3つの視点がある。

◆グローバリズムは成長鈍化をもたらす①②③

- ①「グローバリズムは何をもたらすか」「経済成長を鈍化させるロジック」
- ②「グローバルマネーの影響」「為替変動リスク」「グローバリズムがもたらした需要不足」「自由貿易は互惠的か」「ケインズの「貨幣愛」」
- ③「ビジネスへの自由は、成長をもたらさなかった」「TPPもストップ」「ロシアが浮上」「利那主義・拝金主義・利己主義」「ハンナ・アーレントに学ぶ」
「どのような立場で考えるか」（この部分を以下に抜粋しました。）

「グローバリズムは善」を信じる「思考停止に陥った凡庸な男」にならないために、
私たちが心がけることは何でしょうか。それは・・・

判断力が機能するためには、人間の社交性が条件であり、人間の判断力は、他者の視点から世界がどのように見えるかを想像する力を前提としているということです。私たちは、グローバリズムを考えると時（TPPについても）、イエスかノーかではなく、他者の立場に立ち、批判的に考えてみるのが重要と思うのです。

個人がバラバラで内向きになり、健康・容姿・学歴など、自分のことばかり心配するようになり、趣味が同じなど、小さなグループを作って閉じこもり、同調作用で安心したい。それは「より速く・より遠くに・より合理的に」という価値観のもとで生まれました。しかし、考えを「よりゆっくり・より近くに・より寛容に」と変えることで、違った他者の立場で考えることができるのではないのでしょうか。

（アグリフード（風土）アドバイザーの長谷川さんは「他者の立場に立ち、批判的に考えてみるのが重要」とおっしゃっています。今後とも是非いろいろなお話をうかがいたいです。 エドワ）

⑭ 信毎記事の紹介 柳沢克央さん（2ペ）

信濃毎日新聞の記事から紹介。

○アーレントの贈り物（2017.12.24）

…国際通信 信州へ（田口里穂・裁判所認定ドイツ語通訳・元北安曇郡松川村在住）

○日米地位協定の見直しの時期だ 望月久和さんの「建設標」への鋭い意見

（ハンナ・アーレントの「大人の政治の世界では、服従は同意であり支持である」という言葉にハッとさせれます。 エドワ）

⑮ ブログ紹介：従来型の雇われ仕事の終焉が到来し、…

柳沢克央さん（4 ペ）

「起業家的な働き方」が求められるようになったことを説いたブログの紹介。

「従来型の雇われ仕事の終焉」が到来し、「起業家的な働き方」が求められるようになった。旧来の働き方をしていれば職を失う可能性が高まっている。

2018年1月3日水曜日

◆「起業家的な働き方」をできない人たちの末路 従来型の「雇われ仕事」は消滅してしまう1月1日 熊沢里美

テクノロジーやグローバル化の急激な進展は、無数の革新を生み出した。結果、「従来型の雇われ仕事の終焉（THE END OF JOBS）」が到来し、「起業家的な働き方」が求められるようになった。この事実を受け入れるかどうかで、今後の生き方は大きく変わる。

まず、どうして「従来型の雇われ仕事」が消えていくのだろうか。

- ・「起業家的な働き方」と「従来型の雇われ仕事」

「起業家的な働き方」…「ビジネスや人、アイデア、プロセスからなるシステムを、結びつけ、創造し、発明することである。」（ピアソン氏）

「従来型の雇われ仕事(ジョブ)」…「ほかの誰かがつくったシステムの通りに働くこと」

- ・「雇われ仕事」を得ることは難しくなっている
- ・「起業家経済」が到来した
- ・起業家精神なきものは、この先死んでいく

（「起業家精神は株式や資格と同じく、習得できるものだ。自分次第でいかようににも育てることができる。」と書かれています。これからは起業家精神を意識していく時代かもしれません。エトワリ）

⑯ 紹介 老後貧乏にならないためのシンプルなルール 柳沢克央さん（6 ペ）

大江秀樹氏（経済コラムニスト）の講演会のレジメの紹介。

- ・世の中には老後不安がいっぱい
- ・老後貧乏にならないためのシンプルなルール
 - 1 わからないことをわかるように！
 - 2 元気で働けるうちは働き続ける
 - 3 守るべきルールを間違えない
- ・さいごに一とても大切なこと

★大切な「家族」や「友人」とのコミュニケーション

・まとめ 老後貧乏は避けられる

(私も退職金が気になる年齢になりました。柳沢さんのメモに「給料の後払い」「老後の生活資金」とありますが、これが基本的な考え。 エンドウ)

⑰ 紹介 朝日中高生新聞

エンスタナビ 変化に対応できる人間になろう 柳沢克央さん (1ペ)

東大総長である五神真氏のインタビュー記事の紹介。

東大総長から「学びのススメ」 変化に対応できる人間になろう

(「受験に直接関係がない勉強も大事」「さまざまなことに好奇心をもち、面白いと感じて取り組むことが、人生をいきいき過ごすうえで大事」…いつまでも生き生き過ごしたいですね。 エンドウ)

⑱ 新聞記事の紹介 柳沢克央さん (6ペ)

信濃毎日新聞の記事の紹介。

多思彩彩 2017.12.2 憲法改正なら丁寧な説明を 中北浩爾 (一橋大大学院教授)

国境越えたつながりの時代 入江 昭(ハーバード大名誉教授)

思索のノート 白井聡氏

今回の政界再編の本質 2017.12.2 / 揺らぐ米の政権基盤 2018.1.6

社説 企業の不祥事 「甘え」がまん延している 2017.12.30

日本の国連存在感低下 安保理の非常任理事国外れる 2018.1.5

(企業の不祥事, 米 CNN テレビ「世界がうらやむ卓越した技量を備えていた『日本株式会社』が揺れている」, 中国メディア「日本製造業の匠の精神が踏みにじられた」と報道。日本の製造業の評価はやはり世界的に高いと再認識しました。 エンドウ)

⑲ 信濃毎日新聞データベース 記事の紹介 柳沢克央さん (2ペ)

加熱式たばこにまつわる事件の紹介。

・加熱式たばこに水銀 殺人未遂事件で男逮捕 滋賀 2018.1.10

・加熱式たばこに水銀注入事件 容疑者, 被害男性と金銭トラブル 2018.1.11

(被害者から致死量の水銀を検出。水銀が毒物であることを示す事件。 エンドウ)

⑳ 中島みゆき「マンハッタン ナイト ライン」紹介 柳沢克央さん (2ペ)

中島みゆきの歌の歌詞(日本語と英語)の紹介。

(この歌詞の内容はかなり難解…。でも中島みゆきの歌はやはりいいです。 エンドウ)

㊦ ブログ「ぼるの教育批評」 紹介 柳沢克央さん（4 ペ）

大学の授業参観。すべての授業を、一般公開せよ。無能大学教員の駆逐

山本夏彦の作文『人の一生』

山本夏彦(1915～2002 著『最後の波の音』(99 ペ)より引用紹介)

紹介者のひとこと

◇高校生だった時に、たしか担任ではない教師から次のような話を聞いたことがある。

「夜、寝るときに布団に入った後、胸に手を当てて考えてみるとよい。この問いの答えが分かるようになることが『悟り』を得ることなのだとか。『ぼく（私）は、何をするためにこの世に生まれてきたのか。どこからきたのか。そして、これからどこへ行くのか』」

いまでも時々考えてみるが、答えは、まだ出ていない。ただ、宇宙の一部から生まれ、宇宙に還っていく存在であるということは、間違いないだろう。誰一人の例外もなく…。

◇人生は一度しかありません。これは私のオリジナルではなく、色々な人が手を変え晶を変え説いています（たとえば、駿台予備校化学科のトップ講師・石川正明先生も）。時間は決して過去には戻りません。あなたの未来を切り開くのは、あなた自身なのです。お互いに各自に与えられた固有の時間を大切にして、いつもいつも、色々な勉強をしていきたいものです。人は毎日生れ変わっていると考えても良いようです。〔2018年1月18日（木）朝8:00〕

（私は大学の先生は研究が仕事と思っていましたが…。「人の一生」：人生はいろいろな見方ができます。 エドワ）

㊦ ブログ「内田樹の研究室」 より紹介 柳沢克央さん（16 ペ）

大学教育は生き延びられるのか？

内田樹氏の特別講演の紹介。

(2016.5.19 国立大学教養教育実施組織会議特別講演・サンポートホール高松にて)

◆紹介者のひとこと

内田氏のブログから紹介します。小見出しが全くないので、付けようとも思いましたが、それをすると元のブログの意図からずれることもあるかと思い、やってありません。要するに、本稿の要旨は「日本の大学教育は文科省の行き過ぎた統制の影響下で先細りになりつつある」ということと理解しました。

内田氏のこの講演記録は、今後の大学教育の展開を考える上で無視してはならない重要な指摘かと思えます。私も残念ながら認めざるを得ず、特に反対する見識を持ちません。

大学の英語教育をどのように行うべきかも考える必要があると思われます。長野県立大学の設立に関わるシンポジウム〔11月18日（土）開催予定〕で、どのような話題が出るかは今後を考える上で注目すべきだと思っています。

この紹介資料を作成している11月9日（木）現在の私の予想は、「長野県教育委員会の方針が国の方針と大きく異なることは有り得ない。したがって、このままの方針で設立、運営されると仮定すれば、新設県立大学もご多分に洩れずに教育成果はあまり上がらず、長期的には先細りとなることだろう」です。サークル例会でこのことについても報告できるように、聞くべき話題はしっかりと聞いてこようと思っています。

あまりにレベルが低い場合には、途中退出することも有り得ますが…。さて、どうなりますかな？〔2017年11月9日（木）14:00〕

（日本の大学の学術発進力が急激に衰えるきっかけになったのは、1991年の大学設置基準の大綱化からだそうです。文科省の教育行政の失敗に対して、先生たちに「もういい加減にしろ」と声を上げて欲しいと内田氏は言っています。 エトワリ）

㉓ 信濃毎日新聞データベースより紹介 柳沢克央さん（1ペ）

【特集】日本語と七五調 永遠に刻むリズムか…思いのせ

ここまで徹底した文章は珍しいので紹介することにしたとのこと。

七五調データ検索に引っかかる（字余り）

（「暮らしの知恵が生み出した、ことわざ、標語、注意書き。頭にすっと入れるため、便利な技が七五調。くどくならず切れはよく、もっともらしく人に言う」とあります。確かに七五調はすっと頭に入る気がします。 エトワリ）

㉔ 紹介 朝日川柳 柳沢克央さん（2ペ）

朝日川柳の紹介。2018.1.27付

㉕ 紹介 世相を映してやまびこ 50年 柳沢克央さん（1ペ）

満50年を迎えた信毎建設標コント欄「やまびこ」の紹介。（2018.1.3付け）

柳沢さんは、「今年も楽しみながら、思いつきにまかせて投稿してみるつもり。」とのこと。

②6 紹介 センター試験に出題された実験装置 柳沢克央さん (4 ペ)

「2001 年受験用 センター試験実戦演習 化学 I B (旺文社)」より紹介。
受験生用。

②7 紹介 入試センター試験, 私語と居眠りを許さず 柳沢克央さん (4 ペ)

月刊誌『文藝春秋』より紹介・

「入試センター試験」 藤原正彦 (お茶の水女子大学教授) 1998 年 3 月号より

筆者は小説家新田次郎氏のご子息だそうです (柳沢さんメモ)

「私語と居眠りを許さず」 篠沢秀夫 (学習院大学教授) 2000 年 11 月号より

(藤原氏: センター試験の入試監督での「ロボットになれず, 人間に徹することもできないもどかしさ」の話。篠沢氏: 講義を絶対聴くべきだと, 私語と居眠りを止めさせるための苦闘。 エンドリ)

②8 センター化学対策 極秘資料 柳沢克央さん (2 ペ)

センター試験化学の対策の極秘資料の紹介。

《紫色に注意》, 2018 年の予想。

五七五七七の形で

「何色になるか」ときかれて困ったら紫色と答えてみれば?

オマケ ムキになって無機化学 勇気を出して有機化学

②9 有機そっくりさんMEMO 柳沢克央さん (1 ペ)

勤務校限定の有機化学の資料の紹介。

③0 問題「この問題の答はいくつでしょうか」 柳沢克央さん (1 ペ)

「それなりの価値」のある問題? の紹介。

③1 紹介 朝日中高生新聞 柳沢克央さん (1 ペ)

エンスタナビの記事の紹介。

片山敦之氏 (駿台・校舎長) へのインタビュー記事。

「ペースを崩さず, 手元の教材を完璧に」 実りある冬休みにする

本の紹介: この本がすごい『大学受験勉強法 受かるのはどっち?』笠見実央著, KADOKAWA, 1296 円

ぺ)

【要約】：宗教は「よく死ぬ」ための予習！

設問形式による本の紹介。

☆池上彰『池上彰の 宗教がわかれば世界が見える』

(文春新書) 定価：本体 800 円 (税別)

(2011年7月20日 第1刷発行 2011年8月25日 第4刷発行)

著者の池上彰は1950年、長野県生まれ。NHK退職後はフリージャーナリスト。著書に『世界を変えた10冊の本』(文藝春秋)，『知っているようで実は知らない世界の宗教』(SB新書)など多数。共著に『新・戦争論』(文春新書)，『大世界史』(文春新書)など多数。

*

前回読んだ池上彰ほか著『知っているようで実は知らない世界の宗教』(SB新書)は、もともとテレビの放送内容ということもあって、いささかクイズ的ではあったが、「神道と仏教がいかに日本人の生活に根づいているか」を教えてくれた。そこで、さらに池上彰の宗教関連の本を読んでみたくなった。

本書では、池上彰が世界三大宗教(キリスト教、イスラーム、仏教)から神道、ユダヤ教までを、7人の賢者と対談しながら、「日本と世界のこれから」を読み解いている。

今回も設問形式で本書の紹介を試みたい。

- ◇シー・シェパード
- ◇シェパード (=牧羊犬) →イエス・キリスト
- ◇宗教と気候風土 (大いなる空想を伴う池上仮説)
- ◇世界の国々はみな宗教国家
- ◇ロシア革命の本質 (ロシアも宗教国家?)
- ◇中国と宗教 (中国も宗教国家?)
- ◇中国におけるカトリック弾圧
- ◇超宗教大国アメリカ
- ◇アメリカのユダヤ人
- ◇アメリカ人と進化論 (「天地創造博物館」)
- ◇福音派と共和党
- ◇共和党の大統領候補者選び, 最大の争点
- ◇息子ブッシュとレーガン
- ◇民主主義のジレンマ
- ◇民主主義が原理主義を生む
- ◇インド人とターバン
- ◇植民地支配の常套手段
- ◇霊が怖くなくなった (薄れた「先祖の霊」や「祟り」)
- ◇日本人の宗教観は節操がない?
- ◇外に向かって伸びなくなった創価学会
- ◇江戸時代に信仰形態が戻っている? (娯楽宗教ブーム)
- ◇仏教は「すべてを語り尽くそうとしない」
- ◇「幸福の神義論」と「苦難の神義論」
- ◇仏教宗派のなかの<苦難の神義論>思想
- ◇四天王寺がわざわざ大阪・難波に建てられたワケ
- ◇日本語訳のお経と<場を感じる宗教性>
- ◇仏教は人生の参考書 (用なくば仏教さえも捨てていけ)

- ◇家業になって失ったもの
- ◇葬式 (に坊さん) は要らない
- ◇三回忌, 七回忌などの法要の意味と日本人の宗教観
- ◇お寺の危機とお寺がやれる仕事
- ◇キリスト教徒と『旧約聖書』
- ◇『旧約』抜きでは, イエス=救い主と証明できない
- ◇イエスの「復活」と地中海世界
- ◇聖霊とは?
- ◇初期キリスト教のシンボル (=暗号)
- ◇十字架 (ローマ帝国権力の象徴) →十字軍→対テロ戦争
- ◇「死」をどう捉えるか (仏教とキリスト教)
- ◇神道の出発点
- ◇神社と神様
- ◇神道における「神様 (八百万の神)」とは
- ◇<自分たちにとって尊いと思えるもの>はみんな神様
- ◇神道における「死後の世界」(死んだらどうなる?)
- ◇明治天皇と明治神宮
- ◇「産土型神社」と「勧請型神社」(共同体が優先)
- ◇ラマダン月の断食の由来
- ◇「姦通は石打刑」
- ◇スンニ派とシーア派の対立
- ◇自爆テロ
- ◇日本人と宗教 (あなたは何か宗教を信じていますか)
- ◇「無」意識の宗教→無宗教
- ◇人間の致死率は100%
- ◇和尚, 人って死んだらどうなるんでしょうか
- ◇宗教は「よく死ぬ」ための予習 (おわりに)

*

<一言で言えば>: 宗教は「よく死ぬ」ための予習

さて, この本の内容を一言でいえば「宗教は「死のレッスン」」。どう死ぬかの予習。よりよく死ぬことは, よりよく生きること。よりよく生きることができれば, 心安らかに死を迎えられる。死の予習をすることが, よりよく生きることにつながる。それが宗教を考える意味だ。そして, 宗教を知ることによって, 世界も見えてくる」ということになるだろうか。

*

<池上彰の宗教基礎講座>

本書は, 第1章でまず池上が宗教に関して言いたいこと (宗教がわかれば世界が見える!) を言い, 第2章~第8章は7人の賢者に池上がインタビューをしながら解説を加えるといった構成になっている (なお第2章~第8章は, 「池上彰の『試練を乗り越える信仰入門』(「文藝春秋」2011年5月号掲載)を大幅に加筆修正したもの)。

本書は池上による宗教基礎講座。池上らしい切り口で, 宗教全体を概観させてくれた。

また多くのことを学べ、徐々に宗教がイメージできつつあると感じた。もう少し神道が理解できたら、「3つの一神教」や「日本人と宗教」といった基礎問題集作成に取りかかりたいと思う。(増田)

(「民主主義が原理主義を生む」という言葉にハッとさせられます。 エドワ)

③ 生物と種通信 渡辺規夫さん(6ペ)

専門学校1年生に行った授業《生物と種》の感想と評価。

「たのしさ度」は、5と4が86%(14人中12人)で、とても良い評価です。

<生徒さんの感想より>

○「種」とは何かということについて全く考えたことがなかったのでいろいろな例を見ながら「種」について考えるのはおもしろかったです。見た目は似ていても「種」が違っていれば違うものなんだと思いました。

○高校生のときに生物を習っていて少し分かるところもありました。「レオポン」だけは知っていましたが、「ラバ」とか「ゼブロース」は全く知りませんでした。生物の種というのほとても不思議な運命をたどっているなと思いました。35億年の生物の歴史で、せきつい動物、は虫類、ホ乳類、ヒトが出現したのはごく最近のことなんだと知り、驚きました。

僕は小学生の頃、恐竜がとても大好きで図鑑も何冊か持っていました。その中で恐竜がいた時代にネズミのような生物がいたと思うんですが、それはホ乳類ではなかったということなのでしょうか？それともネズミの先祖はホ乳類ではなかったということなのでしょうか。

【質問に答えて】

恐竜の時代にいたネズミのような動物はホ乳類です。われわれの先祖です。恐竜の時代は2億3000万年前からだいたい6000万年前までです。ホ乳類の先祖は恐竜の時代に(恐竜におびえながら)細々と生きていたのです。恐竜は約6000万年前に滅び、以後ホ乳類が繁栄したのです。ホ乳類は恐竜のもとで、細々と生きていた期間の方が長いのです。

○今まで「品種」ということばをたくさん耳にしてきましたが、イメージがふわっとした曖昧なものだったので、今回の単元で「同じ種でも形態の違うものを区別することば」だということを学び、やっと理解できました。ありがとうございました。

<生物と種の矛盾論>

ところでこの授業でやったことは矛盾していると思った人はいませんか。

生物の種は変化すれば崩壊してしまいます。変化しないから種は安定しているのです。しかし、種が変化しなければ進化できません。

「種は変化しない」これは正しい。

「種は変化する」これも正しい。

これは矛盾です。どう考えたらいいのでしょうか。

自然界の変化する現象を不変の言葉で表現しようとするとき(科学の研究をするとき)必ず矛盾が生じてしまいます。われわれの通常の時間感覚では、種は不連続としてとらえてかまいません。しかし、地質学的時間の中では連続してとらえることができるのです。

われわれの人生のような短い時間では種は変化しません。しかし、ずっと長い時間では変化するのです。

研究するとき必ず矛盾に突き当たります。「矛盾はいけない」と思うと研究は止まってしまう。「矛盾が見えたらしめた」と思うくらいでいくと研究を進めることができるのです。

発想法かるた **変わらないのが種, 変わるのが種**

この**種**を, **社会, 人間, 家族, 学校**などに置き換えることもできます。

(生徒さんにとって新しい発見がたくさんあった授業になったようです。<生物と種の矛盾>のお話では、研究を進めていく上での矛盾論にもとづいたコツが述べられています。 エンドリ)

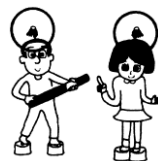
③④ クリスマス特別授業びりりん 渡辺規夫さん (6ペ)

専門学校1年生に行ったクリスマス特別授業〈びりりん〉の感想と評価。

「たのしさ度」は、5と4が7人ずつの100%。すばらしい評価です。

<生徒さんの感想より>

○人にも電気を溜めることができるということに驚きました。電気を起こすのがなかなか難しく、左手を動かさないようにするために、力一杯ニット帽を握っていたので、次の日からどうも左手が痛く、週末にはペットボトルのふたを開けようとしても力が入らなくてもものを握ることができなかつたです。でも本当に貴重な体験をさせてもらったなと思いました。電気が溜まっていくとひらひらが広がるのも、実際目で見れて溜まっていくことがわかりました。なかなか電気を目で見ることはないので、これも貴重なものを見れたなと思います。本当にありがとうございました！



○手をつないで状態だと全ての人に電気が行きわたる実験で、本当に一瞬でビリッとくるだけでしたが、あの一瞬でゾクツとなりました。静電気が起きているのを確かめる道具がいろいろあり、いろんな使い方によって実験ができると知りました。静電気があるとわかっても触りたくなくなってしまうのが人間の性なののでしょうか・・・？

(貴重な体験をした驚きや楽しかったなどの生徒さんの感想がとてもいいです。「クリスマス特別授業」について、渡辺さんが歴史的な解説を書いています。 エンドリ)

③⑤ 板倉さんの「物理学史研究」の研究 渡辺規夫さん（5ぺ）

渡辺さんによる板倉さんの論文の要約・解説。

5・11 デカルトによる落下法則の間違った数学的議論（1）—1618年

「バークマン（オランダの物理学者）の質問に対するデカルトの答」について、渡辺さんが要約しています。デカルトの答は4つの誤りを含んでいる。デカルトが言っている「速さとは一定距離を通過する時間の逆数である」という主張は今日理解されている「速さ」ではない。このような誤りは今日の生徒たちにも普通に見られる誤りである。

5・12 デカルトによる落下法則の間違った数学的議論（2）—1629年

「デカルトからメルセンヌ（フランスの自然哲学者）あての手紙」を渡辺さんが意識と解説をしています。渡辺さんは〔解説〕で次のように説明しています。

デカルトの基本的な誤りは、速度を（さらには運動を）位置の関数として考えようとしているところにあり、これはガリレオも同様な間違いをしている。

速度の概念が難しいことがわかる。また、速度を時間の関数としてとらえるという考え方をするようになることは、きわめて難しいことだったのである。

われわれはともすれば、教科書に何気なく書かれているきわめて易しい記述を生徒もわかると思いがちである。しかし、デカルトやガリレオという大科学者たちも、このことがわからなかったのである。科学史を学ぶと科学教育に役立つ事柄が次々に見つかるのである。

（板倉さんの書かれた論文をわかりやすく丁寧に渡辺さんが解説されています。「科学史を学ぶと科学教育に役立つ事柄が次々に見つかる」という解説の部分は、多くの理科の先生方に紹介したいです。 エトワリ）

③⑥ right（「正しい」）はなぜ「右」でもあるのか？

—私のアマチュア的「right」研究物語— 増田伸夫さん（12ぺ）

増田さんのアマチュア的「right」研究物語で、楽しい研究の過程が紹介されています。

はじめに（私の問題意識）

英語の「right」という言葉には、「正しい」の他に「右」という意味もある（さらには「権利」という意味まである）。なぜ「正しい」という意味の英語（right）に、それとは関係なさそうな「右」という意味まで含まれているのか。それが気になったので、少し調べてみた。

私の最初の予想／仮説（キリスト教が関係している？）

「right（正しい）はなぜ「右」でもあるのか」。そう考えたとき、私はまず<「right」の語義の中で最も古いのは何だろうか>と想像してみた。そして、<「右」, 「正しい」, 「権利」の中ではきっと「右」が最も古い語義だろう>と勝手に予想した。なぜなら、

「正しい」とか「権利」という語義は「右」よりもなんとなく新しい概念だと思われたからだ。そこで、<right にはもともと「右」という意味があつて、そこから「正しい」とか「権利」という語義が派生的に生まれたのだろう>という仮説を立てた。

では、なぜ「右」は「正しいの」か？ そう考えたとき、私はすぐにくそれはキリスト教が関係しているのだろう>と思った。たぶんキリスト教（聖書）では、<右は正しい方向（天国への方向）で、左は悪い方向（地獄への方向）>ということになっていて、それで<「右」→「正しい」>となったのだろう、と仮説を立てたのだ。

検証①（大修館の英和辞書を引く） 手元にある辞書を引く

検証②（『OED』を引く） 県立長野図書館でコピー

検証③（『英語語義語源辞典』を引く） 中野市立図書館でコピー

検証④（「右と左の不思議」を読む） 安村仁志さんの論文

検証⑤（「英語の右と左に関する語彙の意味拡張」を読む） 松井真人さんの論文
結論（right（正しい）はなぜ「右」でもあるのか）

そこで私の問題意識（right（正しい）はなぜ「右」でもあるのか）についての結論であるが、まず松井論文を支持する立場から、<英語の right はもともと「法・規則／まっすぐ」という意味から「公正・正義・権利／正しい」という意味が派生した。そして、左利きより右利きの方が多く、右手の機能上の優越性と聖俗二元論（＝キリスト教的の世界観）が結びついて、「正しい」から「右」という意味が生じた>ということをも認めた（つまり、「法・規則／まっすぐ」→「公正・正義・権利／正しい」→「右」）。

要するに、私の仮説（「右」→「正しい」→「権利」）は間違っていた。ただし、私の（仮説）予想の一部（「正しい」と「右」）との結びつきにはキリスト教が関係している）は、ある程度正しかった（いい線行っていた）と言えるだろう。

ベンジャミンとゴーシュ 安村論文

おわりに

私は英和辞典を引いただけで私の仮説は正しかったと早合点した。でも早合点は禁物である。<辞書は複数引け、裏を取れ>だ。

さて、私はこの研究をすすめるなかで、<right（正しい）はなぜ「右」でもあるのか／「右」はなぜ「左」より優位とされるのか>というような問題意識を持った人が私以外にもたくさんいたことを知った。そのことを知れたことが私は何よりうれしかった。

<語源を調べてみるといろいろなことが分かってたのしいことがある><OED という辞典がある>ということは板倉聖宣さんの文章（『たのしい授業』No.54「言葉のなりたちを調べる意義」等）や牧衷さんの講演から学んだことだ。お二人に感謝したい。（完）

（「問題意識」から出発し、どのように研究を進めていったか詳しく書かれており、何かを研究しようとするときに大変役立つ内容です。徹底的に調べることが大切!! エトドリ）

③⑦ 炭素の同素体 高見沢一男さん（1ペ）

「ビー玉で作った炭素の同素体」の説明用の資料の紹介。

資料は、第一学習社の教科書『化学』。炭素の同素体であるダイヤモンド、黒鉛、フラーレン、カーボンナノチューブの写真、構造、性質が紹介されています。

今回、高見沢さんはこの4種類をビー玉で模型を作り、サークルの皆さんに見せてくれました。とてもきれいでしっかりできた模型です。欲しい方にプレゼントまでしていただきました。作るのに大変な時間がかかっていると思います。ありがとうございました。

（ビー玉で作る分子模型、高見沢さんの研究はまだまだ発展していきそうです。 エンドウ）



あとがき 2月7日に仮説実験授業研究会代表の板倉聖宣先生がご逝去されました。研究会の事務局から会員の皆さまにはご連絡があったことと思います。



2月14日（水） 通夜

2月15日（木）お別れの会

私は増田さんにご一緒させていただき、「お別れの会」に参列させていただきました。竹内さん、岩城さん、桃井さんのお言葉をお聞きすることができました。板倉さんには目に見えないところでお世話になった気持ちが強く、なかなか実感が持てずにいます。（エンドウ）

★ 今後の予定 ★
3月17日（土）
4月28日（土）
5月26日（土）